



開園年月日 昭和13(1938)年10月16日
開園面積 87,809.41m²
樹木数 高木:6,100本(針葉樹270本、常緑樹1,785本、落葉樹4,045本) 低木:28,500m²
主な植物 マツ、モミジ、ケヤキ、ミズキ、クスノキ、スダジイ、ツツジ、サツキ、サクラ、ロウバイ、ウメ、ツバキ、シダレザクラ、イイギリ、タイサンボク、ハギ、サザンカ、ムラサキシキブなど
野鳥 留鳥:シジュウカラ、キジバト、ウグイス、メジロ、カイツブリなど
渡り鳥:オナガガモ、ヒドリガモ、マガモ、オシドリ、キンクロハジロなど
開園時間 午前9時～午後5時(入園は午後4時30分まで)
休園日 年末年始(12/29～1/1) ※イベント開催期間などで時間延長が行われる場合もあります。
入園料 一般 300円 65歳以上 150円(小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料)
※20名以上の団体は、入園料の2割引

集会施設 心泉亭
・全室/定員25名 料金4,800円
・松の間、つつじの間/定員17名 料金3,600円
・もみじの間/定員8名 料金1,200円

宜春亭
・茶室/定員5名 料金7,400円

所在地 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-16-3
お問い合わせ先 六義園サービスセンター
☎03-3941-2222

交通のご案内 JR・地下鉄南北線「駒込」駅下車 徒歩7分
都営地下鉄三田線「千石」駅下車 徒歩10分
※駐車場はありません。



和歌の庭

六義園は五代将軍・徳川綱吉の信任が厚かった川越藩主・柳沢吉保が元禄15(1702)年に築園した和歌の趣味を基調とする「回遊式築山泉水」の大名庭園です。当園は池をめぐる園路をあるきながら移り変わる景色を楽しめる繊細で温かな日本庭園です。

江戸時代の大名庭園の中でも代表的なもので、明治時代に入って、三菱の創業者である岩崎彌太郎の別邸となりました。その後、昭和13(1938)年に岩崎家より東京市(都)に寄付され、昭和28(1953)年に国の特別名勝に指定された貴重な文化財です。



④ 臥龍石

亀の背のような姿を見せる石です。

⑤ 蓬莱島

神仙思想を主題とした石組の一種で、典型的な洞窟石組(アーチ形)の島です。

柱石(しるべの影)の石柱



⑥ 石柱

庭内の88カ所の景勝地(六義園八十八境)には、それぞれに石柱が建てられていましたが、現在では32カ所のみが残っています。

⑦ 滝見の茶屋

あずまの橋を溪流が走り、岩の間から落ちて水しぶきをあげています。あずまからは、滝や石組(水分石/みずわけいし)などの景観や水音が楽しめます。



茶屋と紅葉(11月頃)

⑧ つつじ茶屋

明治年間、つつじの古木材を用いて建てられたものです。戦災をまぬがれ、現代にその希少な姿を伝えています。モミジの紅葉が見事です。

③ 妹山・背山

中の島にある築山。古くは女性のことを妹(いも)、男性のことを背(せ)を呼び、この中の島は男女の間柄を表現しています。イザナギ、イザナミの故事にちなむ「せきれい石」もあります。



⑨ 藤代峠

園内で一番高い築山で、標高は35m。いただきは「富士見山」と呼ばれ、そこからは素晴らしい展望が開けています。紀州(現在の和歌山)にある同名の峠から名付けられました。



⑩ 蛸道

古くはクモを「蛸(さきかた)」と呼び、この小道がクモの糸のように細いことから名付けられました。

⑪ 渡月橋

「和歌のうら 芦迎の田鶴の鳴声に 夜わたる月の 影そさひしき」の歌から名付けられた石の橋。2枚の大きな重量感が、あたりの雰囲気を引き締めています。



① 内庭大門

庭園の中心に入るための門で広場にはシダレザクラの大木が植えられています。



② 出汐の湊

大泉水の池畔の名のひとつ。眺望に富まれ、右手に中の島、左手に蓬莱島、対岸に吹上浜が見えます。



天之御中主神 北斗七星 (九星)



国之常立之神

地の精: ノーム 土祖、産土之神

龍神、水の精、ウンディーネ、水神

風の精: シルフ

(グランディング)



- 地球大霊 + 100
- ゼロ磁場 + 100
- 日本人霊 + 100
- 山神、木霊 + 100
- 妖精 + 100
- 自然霊 + 100

- 自然治癒力 + 100
- 免疫 + 100
- ソマチット + 100